

# 琉球大学学術リポジトリ

## 議政府市の米軍基地と女子高校生の授業に学ぶ

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄県歴史教育者協議会 公開日: 2015-11-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 里井, 洋一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/32560">http://hdl.handle.net/20.500.12000/32560</a>

# 議政府市の米軍基地と 女子高校生の授業に学ぶ

里井洋一

## 「議政府市米軍基地分布図」

2005年1月19日、日韓歴史教育者交流会第4回シンポジウムが沖縄・琉球大学研究者交流施設50周年記念館を会場に行われた。

韓国からは、議政府女子高校の沈佑根先生・禹賢珠先生と高校2学年の歴史探究クラス「タル」の女子生徒たち（以下タルの女子生徒たち）との共同授業「米軍基地」の報告があった。その内容は、「第4回日韓歴史教育者交流会シンポジウム要項」に詳しい。

私は、2004年11月27日、議政府女子高校で行われた授業を参観することができた。その前日から、韓国北部の基地をめぐり、27日には李ヨンナムさんの案内でパジュ周辺の基地を回った。しかし、議政府市内の基地については、事前に見ることもなく授業にのぞんだ。そのためもあって、議政府市内の基地に関して、授業の中で様々な認識が語られたが、十分に理解することができなかつた。そこで、2005年3月21日に議政府市内にある9つの米

軍基地を捜す旅を行った。その結果できあがったのが「議政府市米軍基地分布図」である。

米軍基地を捜す旅にあたっては、2004年10月に緑色連合・米軍基地返還運動連帯によって作成された『2004年 駐韓米軍基地 現況報告』（以下米軍基地報告）の記載地図とタルの女子生徒たちが作った基地分布図<sup>2</sup>、それに議政府市で作成された観光マップと市街地図を参考にして探し当てることができた。米軍基地報告の記載地図はおおよその位置と大小しかわからないが、タルの女子生徒たちが作った基地分布図は米軍基地の広がりや赤で塗りつぶされている。

調査の結果、米軍基地報告に記されている9つの米軍基地の位置を確認した。その結果、米軍基地報告では、Camp Jacksonの位置が間違っており、議政府女子高校タルの女子生徒たちが作った基地分布図にはCamp Kyleが記載されていないことがわかった。「議政府市米軍基地分布図」作成にあたって、基地の広

<sup>1</sup> 韓国の仮面劇のことを「タル」という。「タル」をつけた踊りをタルチュムという。日本の植民地支配時代、パンソリと共に弾圧され滅びかけた。1950年代半ばから伝承の採取と研究が始められ、1970年代初期からソウル大学を中心に学生間のサークル活動としてさかんになり、民主化運動の原点となったという。

<sup>2</sup> 「第4回日韓歴史教育者交流会シンポジウム要項」附録のCD版に所収されている。必要な方は沖縄県歴史教育者協議会事務局まで連絡ください。

がりについては、実際に確認できた範囲と、「Global Security」サイトの各基地Mapを参照して作成した。全範囲を調査したわけではないので、参考程度に考えていただきたい。

### 女子中学生轢殺事件

共同授業「米軍基地」の冒頭先生は、「幼いころから議政府でくらしてきたみなさんは米軍と米軍基地の鉄条網をいつも見てきたのでそれほど感じられないけれども、私は87年に初めて議政府に来て、かすかに長く続く鉄条網の米軍基地の壁面とアメリカ第2師団の前の道の英文の看板と米軍専用の酒場を見て、学生の時地理の時間に議政府は軍事都市だと習った記憶を思い浮かべて、なぜか心の苦しい気分を消すことができませんでした。」と述べる。

アメリカ第2師団とは、アメリカ陸軍第8軍第2師団のことであり、師団司令部が議政府市内のキャンプ・レッド・クラウドに置かれている。



写真1  
キャンプ・レッド・クラウド正門前

キャンプ・レッド・クラウド正門前は、遺族と全国153の社会团体によって結成された「米軍装甲車による女子中学生故シン・ヒョスン、シム・ミソン殺人事件汎国民対策委員会」

(汎国民対策委)が主催する抗議集会が何度も開かれた場所である。

女子中学生轢殺事件とは、2002年6月13日、「京畿道揚州郡広積面56番(回)地方道路で米2師団44工兵隊(キャンプハウズ)所属米軍装甲車(運転手ワーカーマーク兵長.36歳)が、先に歩いていた女子中学生伸孝順(14.朝陽中2年)、審美船(14.朝陽中2年)を車両で轢殺した。」<sup>3</sup>事件である。ちなみに汎国民対策委による第1回正門前抗議集会は、6月26日に開かれている<sup>4</sup>。

7月17日には、午後4時、議政府(ウイジョンブ)駅の広場に中学・高校生約400人が集まり、風物(プンムル・韓国伝統の農楽)や合唱公演などで「青少年追慕文化祭」が行われ、米国大統領の公開謝罪、韓国の法廷での米国被疑者の処罰などを要求する決議文が採択されている<sup>5</sup>。タルの女子生徒たちも、轢殺された二人と同様この時期女子中学生で

<sup>3</sup> 議政府女子高校「タル」(歴史探究クラブ)作成パワーポイント『米軍基地、その真実の中で』10頁

<sup>4</sup> 韓国中央日報2002年6月28日の記事には、「市民団体の『わが土地を米軍基地から取り戻すための市民連帯』と全国民主労働組合総連盟(民主労総)、議政府(ウイジョンブ)参加連帯、京畿北部環境運動連合など汎国民対策委員会およそ500人は26日午後4時から、議政府市佳陵洞(カヌンドン)にある米第2師団の正門前で糾弾大会を行った。会員およそ10人は、午後6時ごろ、抗議書状を渡すため、切断機で第2師団正門のそばの鉄条網を横1.5メートル、縦2メートルほど切り込んで部隊内に駆け込み、米軍側と衝突した。この過程でインターネット放送「民衆の声」の韓某、李某記者が米軍に連行され、3時間にわたって基地内に身柄を捕えられていたが、議政府警察署に引き渡され、28日、軍事施設保護法の違反容疑で逮捕状が請求された。」とある。

<sup>5</sup> 朝鮮日報 2002年7月17日、

あった。

### 「基地村」

タルの女子生徒たちも沈佑根先生<sup>シムウゲン</sup>と同様、議政府市のイメージを「軍事都市」・「基地村」ととらえている<sup>6</sup>。「基地村」には否定的なニアンスがあり、議政府市民であることを堂々と言えないことが、日韓歴史教育者交流会第4回シンポジウムでは問題となった。

議政府市の米軍基地は朝鮮戦争(1950～53年)前後に形成され、1980年頃までは、米軍が社会・文化に大きく影響し「基地村」が形成されたという。「基地村」とは、米兵が飲食・遊ぶ施設がまとも存在する場所をさす。基地村を象徴する文化商品が「部隊チゲ」・「議政府チゲ」で、米軍から出てくる肉やハムとキムチで作られている。しかし、80年以後、基地村は消滅し、わずかにキャンプスタンレー東南の松山洞(ソンサン洞)にある基地村が残るのみになっている<sup>7</sup>。

キャンプスタンレーは、米軍基地報告によると、議政府市にある9つの基地の中で、もっとも兵士の多い米軍基地である。1955年に野外兵営として始まり、69年に最初の建物が建設されたという<sup>8</sup>。また、陸軍米8軍2師団砲兵司令部が置かれ、砲兵

大隊および航空大隊が配備されているという。2005年6月17日、米軍事専門紙「星条紙」は、議政府(ウィジョンブ)のキャンプ・スタンレーで多連装ロケット砲(MLRS)の2大隊を主軸とする砲兵旅団を創設し、多目的航空旅団(MFAB)も創設、未来型師団への再編を完了した、と伝えたという<sup>9</sup>。

2005年3月21日の調査では、キャンプスタンレー東南隅の道路から進入して松山洞(ソンサン洞)の基地村を歩いた。米兵が行き交い、米兵相手と思われる飲食店が車二台がようやくすれ違える程の道両側に立ち並んでいる。その道の行き着く先はキャンプスタンレーの入り口になっていた。

写真2



松山洞(ソンサン洞)の基地村

松山洞(ソンサン洞)にある基地村はベッポルという。ベッポルとは「一度足を踏み入れたら出られない」とい

<sup>6</sup> 議政府女子高校「タル」(歴史探究クラブ)作成パワーポイント『米軍基地、その真実の中で』4頁

<sup>7</sup> 李柄樹(「我が土地米軍基地取り戻し議政府市民連帯」議執行委員長)「世界平和共同体市民に生まれ変わる議政府を目指して」(駐韓米軍問題解決運動史『老斤里から梅香里まで』107～109頁),2001年6月25日、日本語版2002年1月20日、

<sup>8</sup> 「Global Security」サイト

<sup>9</sup> 中央日報 2005年6月17日。同紙によると、第2師団長ヒギンス師団長は、砲兵旅団について「韓半島で最も強力な火力を備えている」と評価した、と付け加えた。という。

う意味である。基地村で働く女性たちは、女性・売春・米兵相手を理由に三重に差別されている上に他の仕事につく訓練を受けていないこともあって、なかなか抜け出すことができないためベッポルと名付けられたと思われる。

1986年、そういうベッポルにトゥレバンという、人身売買・性売買・軍事主義による弊害の根絶を模索し、阻害された女性達を支援する組織が創建された<sup>10</sup>。トゥレバンは2003年12月19日「売春女性報告書」を発表し、基地村の実態を報告している<sup>11</sup>。

### 交通渋滞

タルの女子生徒たちは、「米軍部隊3か所が市内中心街の6万坪あまりを占有し、交通渋滞を招いている」ことを問題にした。3か所の米軍基地とは、①Camp Red Cloud、②La Guardia、③Camp Falling Water、である。

交通渋滞という意味で特に問題なのはLa Guardiaである。

基地報告によると、La Guardiaはリボン船橋と浸透作戦用ボード、弾薬庫等複合的な機能を含んでいる歩兵部隊が配置され、滑走路、弾薬庫があるという。「Global Security」サイトでは、

Camp La Guardiaと認識され、第50工兵隊と軍楽隊が置かれているという<sup>12</sup>。議政府駅の北東すぐのところにLa Guardiaが広がっている。駅の北西の国道3号線沿いにはぎやかな繁華街なのに、北東側は、基地の塀沿いにくっついて家があり、静かではあるが、それゆえに物騒な路地が続いていた。

La Guardiaは、かつて、ヘリコプター基地であり、都市の真ん中でたてる騒音と振動はひどいものであり<sup>13</sup>、タルの女子生徒たちはこの騒音問題を授業で報告し、次のような日記を紹介した。

2001年3月19日米軍ヘリコプターが朝から午後夜8時55分頃までこの日は一日中低空飛行を敢行し、この着陸によって子どもが驚き、家が大騒ぎになって不安と恐怖に苦しめられ、話せないほどの苦痛を味わった。40年という長い歳月に苦痛の中で暮らしている住民たちの心情をどこの誰がわかるのか。わが住民たちは（米軍側）（政府側）（国防部）に数十回陳情したが、政府や米軍側は何の対策もなく相変わらず被害を味わいながら生活している。わが住民と私はどうして耐えられず、神経安定剤を服用して暮らし、私は年老いてヘリコプターが離着陸するたびに騒音、振動によって頭痛症状が現れ、胸がドキドキしながら腕、脚が震え、胸が引き締まって話せない苦痛を味わう

現在、ヘリコプターは撤去されている。しかし、都市の真ん中に飛行場があるLa Guardiaは今も存在している。そのため、議政府中心部を南北に走る道路は遮断され、議政府市内の渋滞を引き起こす要因となっている。この南北に貫く国道3号線バイパス道路を完成させるためには、La Guardiaの移転が必要だが、米軍は、設備移転費用は約3百億ウォンと

<sup>10</sup> ハンギョレ新聞 2004年9月15日

<sup>11</sup> 朝鮮日報2003年12月19日、記事によると「クラブで働く間、食事もまともにももらえなかった。クラブの主人はいつもドアにカギをかけた。こんな惨い生活から逃れる方法は、米軍と結婚すること意外なかった」フィリピン女性のB（27）さんが話したという。また トゥレバンの金ドンシム（31）相談室長は「外国女性の場合、言語的、文化的差異のため、生活に大変苦労している」とし、「劣悪な生活環境のため、いろんな疾患に悩まされることが多いが、これを解決する方法をうまく探せずにいる」と話している。

<sup>12</sup> <http://www.globalsecurity.org/military/facility/camp-laguardia.htm>

<sup>13</sup> 前掲『老斤里から梅香里まで』108頁

写真3



バイパスに立ちはだかる La Guardia



新しい敷地を要求しているため道路は部隊の前で止まっただとタルの女子生徒たちは授業で報告している<sup>14</sup>。

私は、前述の都市の真ん中で、道路をさえぎっているLa Guardiaはたしかに異様だが、もっと異様なのは議政府駅をとりこむように存在しているCamp Falling Waterであると感じた。議政府駅には国道3号線にむかって駅前広場がある。その左右にCamp Falling Waterの入り口がある。タルの女子生徒たちは、このような状況を、「駅を中心とする議政府駅税圏・商圈発展の阻害要因になっている。」<sup>15</sup>と指弾している。

Camp Falling Waterの機能を、基地報告は工兵隊、施設を軍営鉄道管区、工兵作業場としている。「Global Security」サイトでは、1997年5月、ムンサンとキャンプキャッセイにあったAFKN (American Forces Korea Network) が統合されて、AFKN Falling Waterが成立し、20000人を超す軍人・軍属とその家族にテレビやラジオを通してニュースや情報を提供しているという。韓国に展開しているAFKNには、ソウルにある軍司令部を中心に、オサン、クンサン、テグにもAFKN Falling Waterと同様支部

がある<sup>16</sup>。

2003年10月21日、議政府駅前の地下道に油が流出していることが判明した。Camp Falling Waterと向かい合う場所である<sup>17</sup>。

### わが土地

#### 米軍基地取り戻し

#### 議政府市民連帯会議

1996年6月、議政府市に「わが土地

米軍基地取り戻し議政府市民連帯会議」が結成された。「わが土地 米軍基地取り戻し議政府市民連帯会議」は〈八、15記念 平和統一を祈願する我が土地 米軍基地を取り戻す市民ジョッキング大会〉やキャンプ・スタンリー付近の騒音・水質汚染調査、毎週火曜集会などを行った。

その過程でLa Guardiaのヘリコプターは撤去された<sup>18</sup>。また、2005年末までにはCamp Falling Waterの返還がきまっており、跡地には公園と商業用地になるということである<sup>19</sup>。

<sup>16</sup> <http://www.globalsecurity.org/military/facility/camp-falling-water.htm>

<sup>17</sup> ハンギョレ新聞、2003年10月21日

<sup>18</sup> 前掲『老斤里から梅香里まで』109～114頁

<sup>14</sup> 「第4回日韓歴史教育者交流会シンポジウム要項」 27～28ページ

<sup>15</sup> 「第4回日韓歴史教育者交流会シンポジウム要項」 27ページ

用地になるということである<sup>19</sup>。

2006年には、La Guardia、Camp Kyle、Camp Searsの返還が予定されている。Camp Kyle、とCamp Searsは議政府市の北部住宅街に面した位置にある基地である。

Camp Kyleは基地報告によると、61整備部隊が配備されているという。また、「Global Security」サイトによれば、Camp Kyleは朝鮮戦争以来整備部隊が配備されつづけたという<sup>20</sup>。

Camp Searsは基地報告によると、陸軍米8軍支援団（東豆川 Camp Casey）配下のミサイル整備中隊が配備されているという。

2008年には、Camp Jacksonと、Camp Essayonの返還が決まっている。

Camp Jacksonは基地報告によると、下士官教育隊（1週単位 教育実施）が配備され、士官候補生訓練所を含めば基地の面積はもっとふくらむという。

また、「Global Security」サイトによれば、Camp Jacksonは朝鮮戦争以来下士

官をうみだしてきたという<sup>21</sup>。

Camp Essayonは基地報告によると、陸軍米8軍102軍事情報旅団が配備され、滑走路、弾薬庫があるという。

1996年に結成された「わが土地 米軍基地取り戻し議政府市民連帯会議」は地道な運動をねばりつよく行う中で、9つある米軍基地のうち、6つの返還撤去を視野に収めるにいたっている。

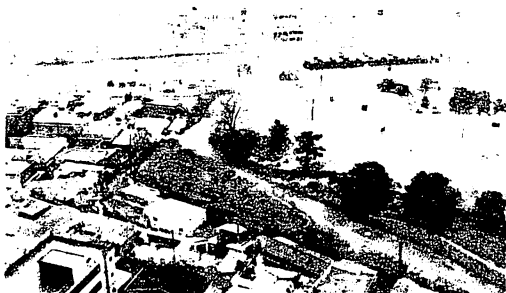
タルの女子生徒たちは、軍事都市・基地村議政府に恥じ入ることと、基地に対する「わが土地 米軍基地取り戻し議政府市民連帯会議」の地道な運動を日常的に見る中で育ってきたと理解することができよう。

タルの女子生徒が授業の中で伝えてくれることによって、私は、議政府を再び訪れ、基地をめぐり、理解を深め、学ぶ喜びを得ることができた。

ここに、議政府女子高校の生徒およびの沈佑根先生・禹賢珠先生に感謝したい。

（琉球大学 教育学部）

写真4



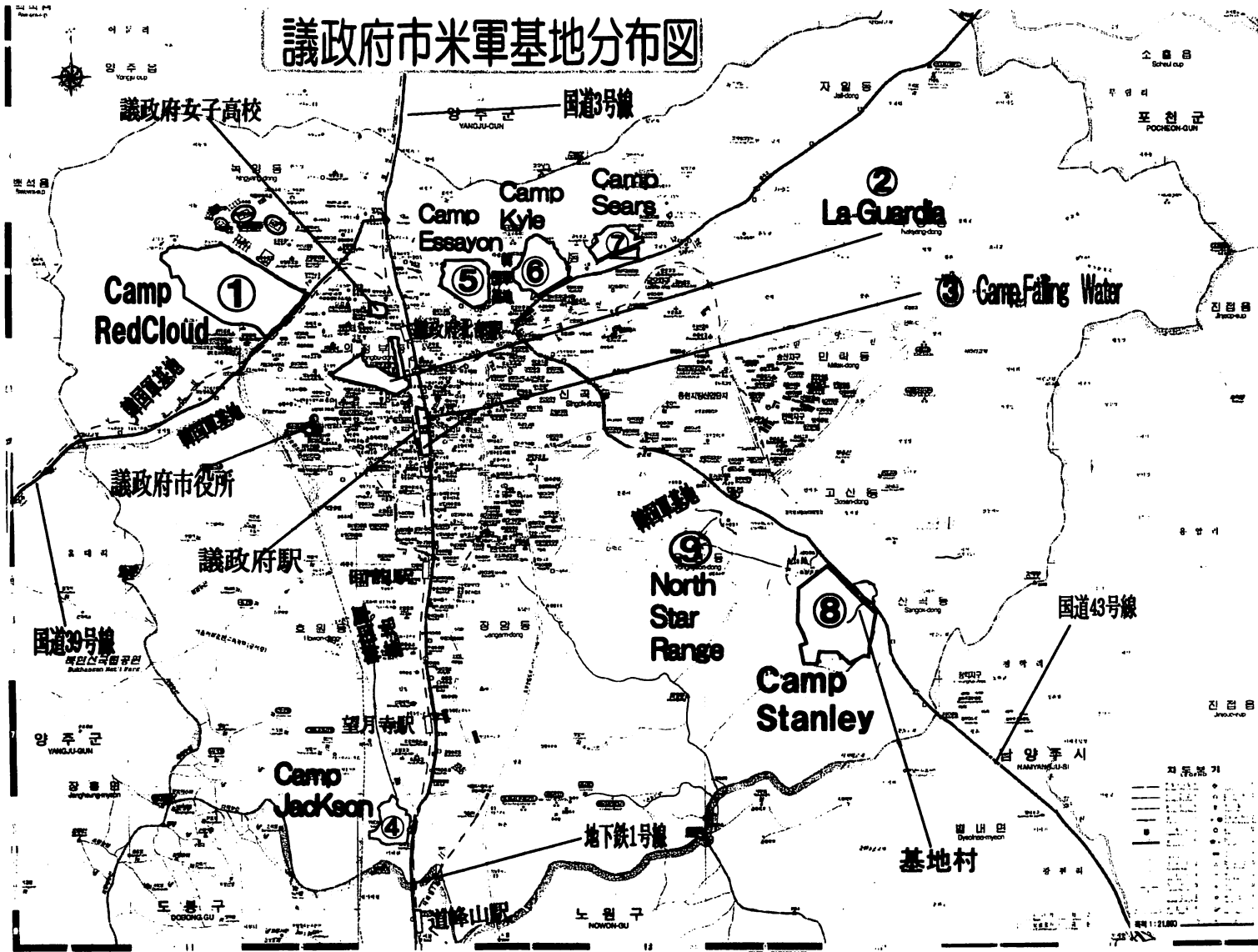
高層団地からみおろしたCamp Sear。議政府市の都市化がわかる

<sup>19</sup> 東亜日報 2005年5月6日

<sup>20</sup> <http://www.globalsecurity.org/military/facility/camp-kyle.htm>

<sup>21</sup> <http://www.globalsecurity.org/military/facility/camp-jackson.htm>

# 議政府市米軍基地分布図



基地の広がりはいくまでも里井の推定である。再調査をする必要がある